

青森県経済統計報告

令和 4 年 2 月 4 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和 4 年 1 月 1 日現在） 1

| | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 県 人 口 1,217,989 人（対前月 1,231 人減少） | |
| 自然動態 | 1,163 人減少（出生者数 473 人、死亡者数 1,636 人） |
| 社会動態 | 68 人減少（転入者数 996 人、転出者数 1,064 人） |

2 本県の経済動向（令和 3 年 11 月・12 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きが続いている。なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和 4 年 1 月期）をみると、前期から上昇し、景気の横ばいを示す 50 を 16 期ぶりに上回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和 3 年 11 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 27 年＝100）は、季節調整済指数が 109.0 で、前月比 5.5% の上昇となり、2 カ月連続で前月を上回った。また、原指数は 111.4 で、前年同月比 11.2% の上昇となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和 3 年 11 月の**定期給与**は 226,861 円で前年同月比 1.2% 増となった。 ... 3
・令和 3 年 11 月の**総実労働時間**は 150.9 時間で前年同月比 1.1% 増、**所定外労働時間**は 9.4 時間で前年同月比 8.8% 減となった。
・令和 3 年 12 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 1.13 倍で、前月を 0.01 ポイント下回り、9 カ月連続で 1 倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和 3 年 12 月の**青森市消費者物価指数**（令和 2 年＝100）は、総合指数が 100.7 となり、前月と比べわずかに上昇、前年同月比 1.2% の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 98.8 となり、前月比 0.2% の下落、前年同月比 1.4% の下落となった。 ... 5
- (2-4) 個人消費 ・令和 3 年 12 月の**百貨店・スーパー販売額**は、188 億円で全店舗ベースが前年同月比 0.9% 減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 1.7% 減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。 ... 6
・令和 3 年 12 月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 2,601 台で、前年同月比 2.2% 増となり、7 カ月ぶりに前年同月を上回った。
・令和 3 年 12 月の主な観光施設の**観光入込客数**は、49 万 5 千人で前年同月比 15.7% 増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、17 万 1 千人で前年同月比 25.5% 増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 ・令和 3 年 12 月の**新設住宅着工戸数**は 433 戸で、前年同月と同水準となった。 ... 8
・令和 3 年 12 月の**公共工事請負金額**は 43 億 9,200 万円で前年同月比 8.4% 減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 令和 3 年 12 月の**企業倒産**は、件数は 2 件で前年同月比 33.3% 減となった。負債総額は 1 億 1,900 万円で前年同月比 83.7% 減となった。 ... 8

（3）景気動向指数 C I（令和 3 年 10 月分）※更新なし 9

| | |
|------|-------------------------------------|
| 先行指数 | 118.1（前月を 10.5 ポイント下回り、4 カ月連続で下降した） |
| 一致指数 | 85.0（前月を 2.3 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した） |
| 遅行指数 | 100.2（前月を 3.3 ポイント上回り、3 カ月連続で上昇した） |

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和 4 年 1 月期） 10

| | |
|----------------------|---|
| 3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I | … 52.0（前期比 7.5 ポイント上昇、16 期ぶりに 50 を上回る） |
| 3 カ月後の景気の先行き判断 D I | … 47.8（現状判断 D I と比べ 4.2 ポイント低下、50 を下回る） |

1 青森県の推計人口（令和4年1月1日現在）

【概 況】

令和4年1月1日現在の本県推計人口は、1,217,989人で、前月に比べ1,231人の減少となった。

○自然動態

出生者数が473人、死亡者数が1,636人で、1,163人の減少となった。

○社会動態

転入者数が996人、転出者数が1,064人で、68人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

| | 総数 | 男 | 女 | 対前月 増減率 | 増減数 | 自然 増減数 | 出生者数 | 死亡者数 | 社会 増減数 | 県外からの 転入者数 | 県外への 転出者数 |
|------------|-----------|---------|---------|------------|---------|-----------|------|-------|-----------|---------------|--------------|
| 昭 45.10. 1 | 1,427,520 | 685,477 | 742,043 | - | 10,929 | - | - | - | - | - | - |
| 50.10. 1 | 1,468,646 | 707,232 | 761,414 | - | 41,126 | - | - | - | - | - | - |
| 55.10. 1 | 1,523,907 | 735,444 | 788,463 | - | 55,261 | - | - | - | - | - | - |
| 60.10. 1 | 1,524,448 | 731,439 | 793,009 | - | 541 | - | - | - | - | - | - |
| 平 2.10. 1 | 1,482,873 | 704,758 | 778,115 | - | -41,575 | - | - | - | - | - | - |
| 7.10. 1 | 1,481,663 | 704,189 | 777,474 | - | -1,210 | - | - | - | - | - | - |
| 12.10. 1 | 1,475,728 | 702,573 | 773,155 | - | -5,935 | - | - | - | - | - | - |
| 17.10. 1 | 1,436,657 | 679,077 | 757,580 | - | -39,071 | - | - | - | - | - | - |
| 22.10. 1 | 1,373,339 | 646,141 | 727,198 | - | -63,318 | - | - | - | - | - | - |
| 27.10. 1 | 1,308,265 | 614,694 | 693,571 | - | -65,074 | - | - | - | - | - | - |
| 令2. 10. 1 | 1,237,984 | 583,402 | 654,582 | - | -70,281 | - | - | - | - | - | - |
| 令3. 1. 1 | 1,234,922 | 581,990 | 652,932 | -0.087% | -1,077 | -1,054 | 513 | 1,567 | -23 | 1,008 | 1,031 |
| 令3. 2. 1 | 1,233,612 | 581,319 | 652,293 | -0.106% | -1,310 | -1,294 | 487 | 1,781 | -16 | 1,027 | 1,043 |
| 令3. 3. 1 | 1,232,303 | 580,617 | 651,686 | -0.106% | -1,309 | -1,084 | 453 | 1,537 | -225 | 1,023 | 1,248 |
| 令3. 4. 1 | 1,226,704 | 577,732 | 648,972 | -0.454% | -5,599 | -1,080 | 584 | 1,664 | -4,519 | 3,583 | 8,102 |
| 令3. 5. 1 | 1,226,052 | 577,551 | 648,501 | -0.053% | -652 | -928 | 604 | 1,532 | 276 | 2,861 | 2,585 |
| 令3. 6. 1 | 1,224,781 | 576,924 | 647,857 | -0.104% | -1,271 | -1,010 | 540 | 1,550 | -261 | 884 | 1,145 |
| 令3. 7. 1 | 1,223,717 | 576,436 | 647,281 | -0.087% | -1,064 | -900 | 546 | 1,446 | -164 | 1,015 | 1,179 |
| 令3. 8. 1 | 1,222,949 | 576,212 | 646,737 | -0.063% | -768 | -910 | 554 | 1,464 | 142 | 1,460 | 1,318 |
| 令3. 9. 1 | 1,222,051 | 575,775 | 646,276 | -0.073% | -898 | -963 | 621 | 1,584 | 65 | 1,322 | 1,257 |
| 令3. 10. 1 | 1,221,305 | 575,531 | 645,774 | -0.061% | -746 | -958 | 564 | 1,522 | 212 | 1,423 | 1,211 |
| 令3. 11. 1 | 1,220,315 | 575,169 | 645,146 | -0.081% | -990 | -958 | 550 | 1,508 | -32 | 1,167 | 1,199 |
| 令3. 12. 1 | 1,219,220 | 574,659 | 644,561 | -0.090% | -1,095 | -1,066 | 515 | 1,581 | -29 | 1,039 | 1,068 |
| 令4. 1. 1 | 1,217,989 | 574,117 | 643,872 | -0.101% | -1,231 | -1,163 | 473 | 1,636 | -68 | 996 | 1,064 |

12月中の人口動態の推移

（単位：人）

| 年月 | H23.12 | 24.12 | 25.12 | 26.12 | 27.12 | 28.12 | 29.12 | 30.12 | R元.12 | 2.12 | 3.12 |
|----------|---------------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 自然 動態 | 出生者数 | 732 | 742 | 738 | 680 | 724 | 666 | 674 | 595 | 553 | 473 |
| | 死亡者数 | 1,458 | 1,549 | 1,494 | 1,525 | 1,506 | 1,485 | 1,505 | 1,493 | 1,571 | 1,636 |
| | 自然増減数 | -726 | -807 | -756 | -845 | -782 | -819 | -831 | -898 | -1,018 | -1,163 |
| 社会 動態 | 県外からの 転入者数 | 1,035 | 959 | 919 | 965 | 1,052 | 920 | 944 | 989 | 942 | 1,008 |
| | 県外への 転出者数 | 1,091 | 1,118 | 1,237 | 1,152 | 1,180 | 1,107 | 1,080 | 1,134 | 1,045 | 1,031 |
| | 社会増減数 | -56 | -159 | -318 | -187 | -128 | -187 | -136 | -145 | -103 | -23 |
| 増減数計 | | -782 | -966 | -1,074 | -1,032 | -910 | -1,006 | -967 | -1,043 | -1,121 | -1,231 |

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口（確定値）。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 令和3年11月30日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

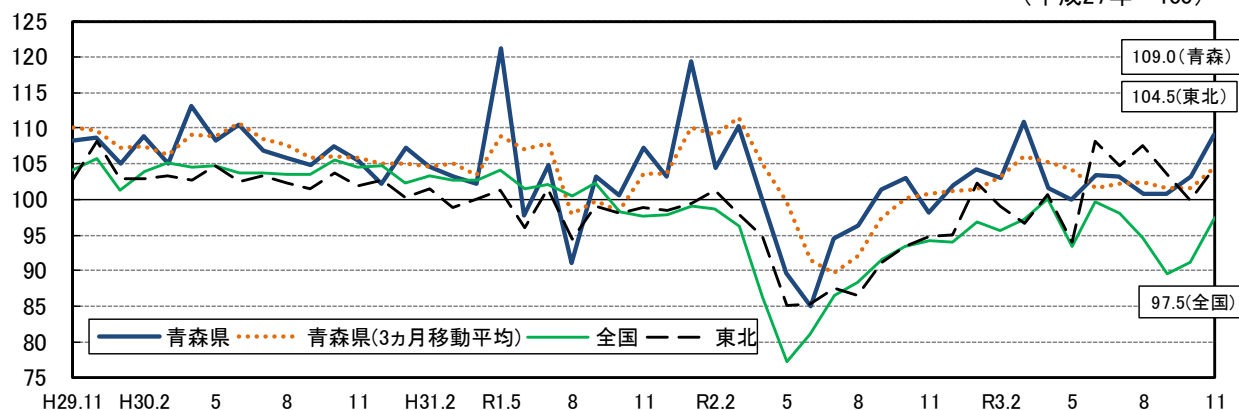
(2-1) 生産動向

令和3年11月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が109.0で、前月比5.5%の上昇となり、2カ月連続で前月を上回った。また、原指数は111.4で、前年同月比11.2%の上昇となり、2カ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、金属製品工業、化学工業、非鉄金属工業等が上昇に寄与した一方、生産用機械工業、家具工業、業務用機械工業等が低下し、鉱工業全体では5.5%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成27年=100)



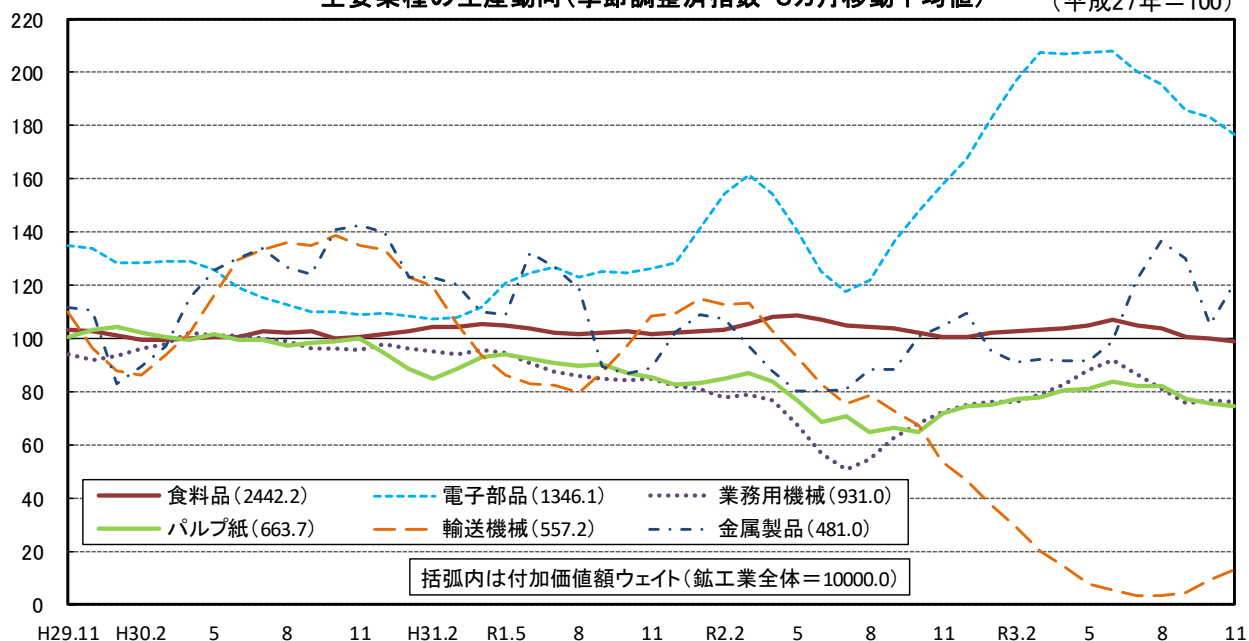
◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 5.5%

| プラス | | | マイナス | | |
|-------------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 業種 | 前月比(%) | 寄与率(%) | 業種 | 前月比(%) | 寄与率(%) |
| 金属製品工業 | 214.4 | 121.9 | 生産用機械工業 | -65.1 | -142.1 |
| 化学工業 | 144.3 | 92.8 | 家具工業 | -42.1 | -14.5 |
| 非鉄金属工業 | 22.1 | 16.5 | 業務用機械工業 | -4.3 | -5.8 |
| 電子部品・デバイス工業 | 3.4 | 15.3 | 繊維工業 | -10.0 | -5.1 |
| はん用機械工業 | 99.7 | 11.0 | 輸送機械工業 | -15.8 | -2.9 |

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウェイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成27年=100)



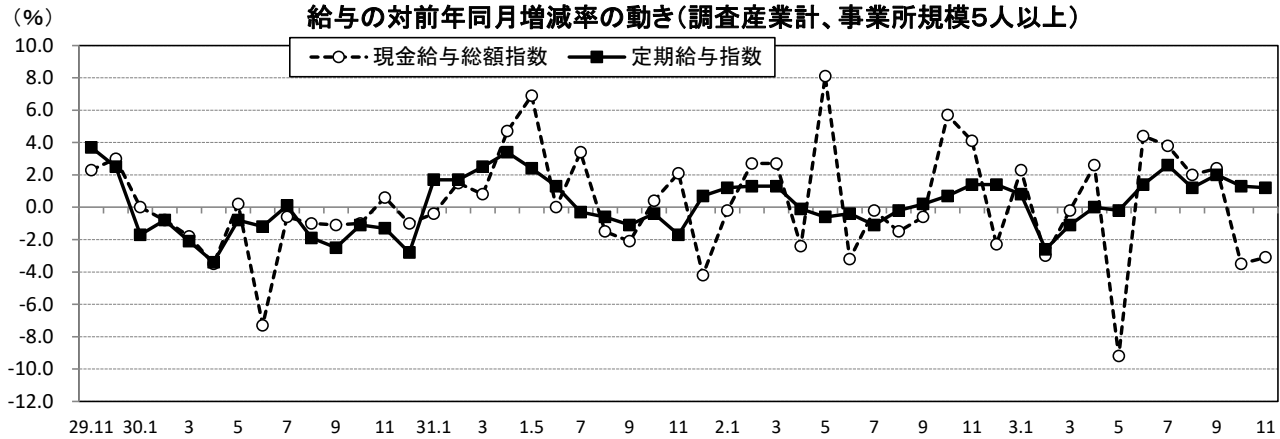
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和3年11月の定期給与は226,861円で、定期給与指数（平成27年＝100）では105.0となり、前年同月比1.2%増と6カ月連続の増（現金給与総額244,674円、現金給与総額指数97.6、前年同月比3.1%減）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は85.8となった。

総実労働時間は150.9時間で、総実労働時間指数は97.6となり、前年同月比1.1%増と3カ月ぶりの増となった。このうち、所定外労働時間は9.4時間で、所定外労働時間指数は81.7となり、前年同月比8.8%減と5カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

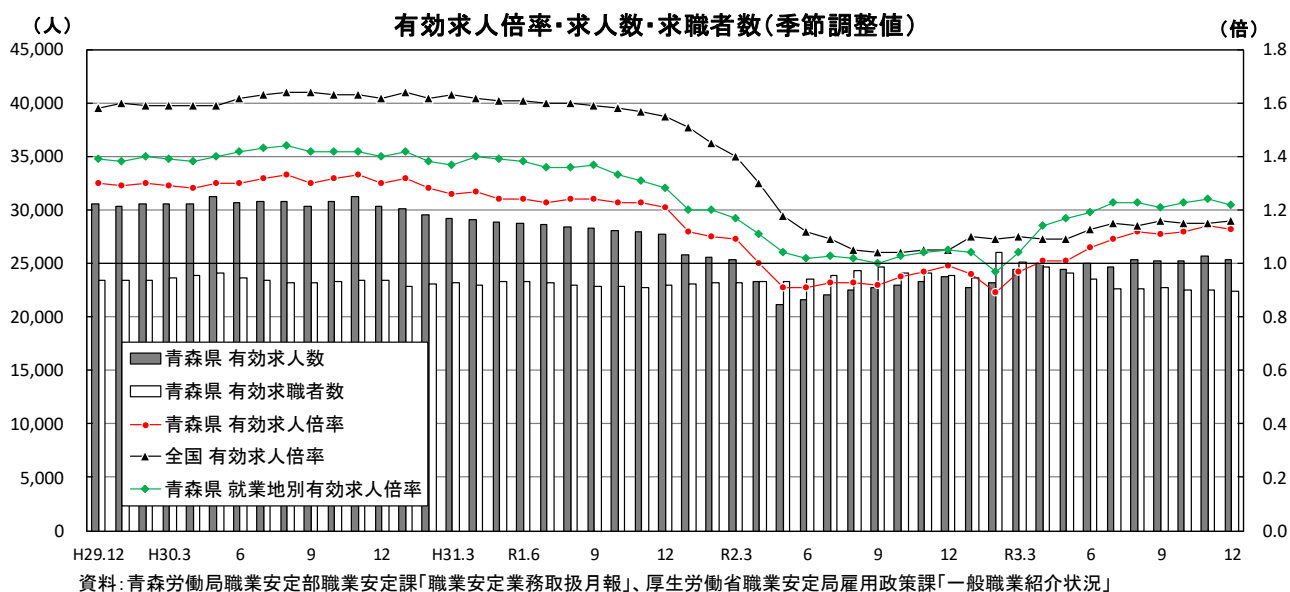
| | 実 数 | | 指数 (H27=100) | | 対前年同月増減率 | |
|---------|-----------|-----------|--------------|-------|----------|-------|
| | 青森県 | 全 国 | 青森県 | 全 国 | 青森県 | 全 国 |
| 現金給与総額 | 244,674 円 | 282,749 円 | 97.6 | 89.6 | -3.1 % | 0.8 % |
| 定期給与 | 226,861 円 | 264,454 円 | 105.0 | 101.5 | 1.2 % | 0.4 % |
| 特別給与 | 17,813 円 | 18,295 円 | — | — | — | 6.9 % |
| 総実労働時間 | 150.9 時間 | 139.4 時間 | 97.6 | 96.5 | 1.1 % | 0.9 % |
| 所定内労働時間 | 141.5 時間 | 129.2 時間 | 98.9 | 96.8 | 1.9 % | 0.6 % |
| 所定外労働時間 | 9.4 時間 | 10.2 時間 | 81.7 | 92.7 | -8.8 % | 5.1 % |

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。 また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

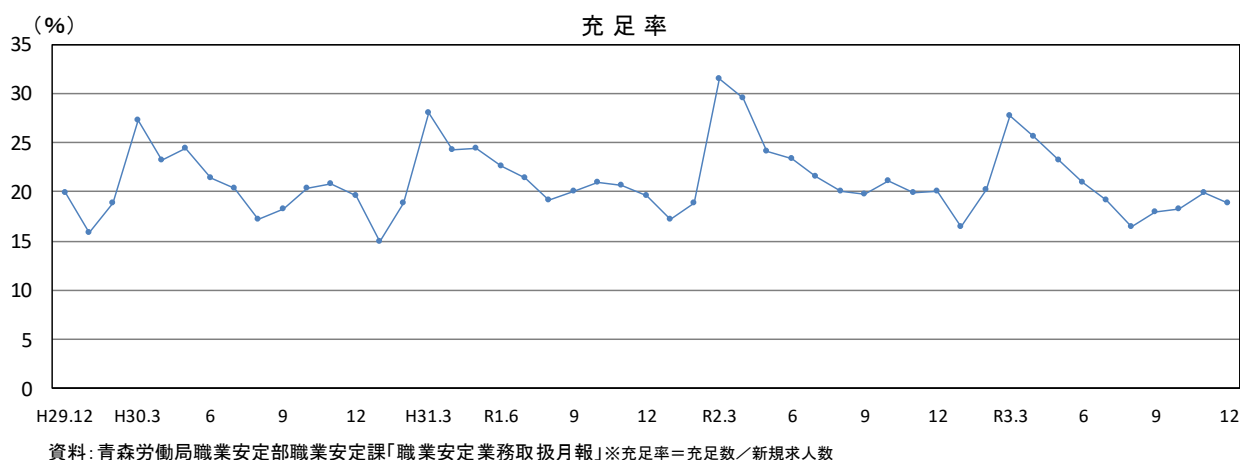
(2-2-2) 有効求人倍率

令和3年12月の有効求人倍率(季節調整値)は1.13倍で、前月を0.01ポイント下回り、9カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.22倍で、前月を0.02ポイント下回った。



(参考) 充足率(新規学卒者を除きパートタイムを含む)

令和3年12月の充足率は18.9%で、前年同月を1.2ポイント下回った。



(2-3) 物価

令和3年12月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が100.7となり、前月と比べわずかに上昇、前年同月と比べ1.2%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.6となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.8%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は98.8となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ1.4%の下落となった。

総合指数が前月と比べわずかに上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、食料などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

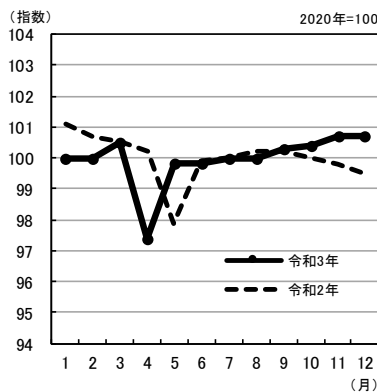


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

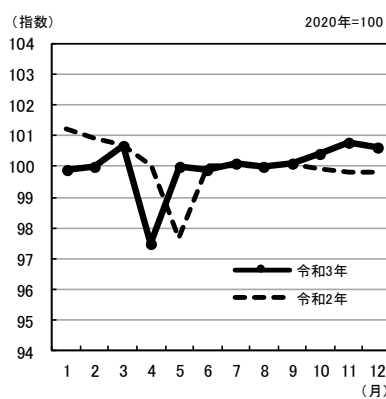
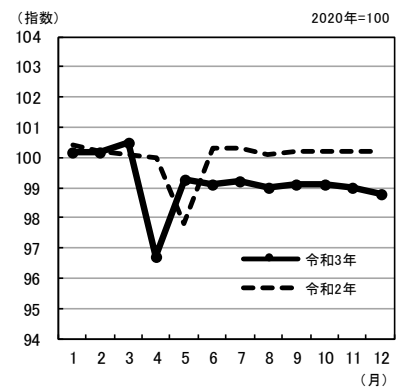


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(2020年=100)

| （注）食料・被服・保健・交通・通信・教育・娯楽・雑費 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|-------|---------------|--------------------------|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|-----------------|------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|---------------|-----------------|
| | 総 合 | 生鮮食品 を除く総合 | 生鮮食品及 びエネルギー を除く総合 | 食料（酒類を 除く）及びエネ ルギーを除く 総合 | 食 料 | 生 食 | 鮮 品 | 住 居 | 光 熱 ・ 水 道 | 家 具 ・ 家 用 事 品 | 被 服 ・ 履 物 | 保 健 ・ 医 療 | 交 通 ・ 通 信 | 教 育 | 教 娯 ・ 楽 | 養 諸 ・ 雑 費 |
| 当月指数 | 100.7 | 100.6 | 98.8 | 98.0 | 101.4 | 103.4 | 100.6 | 113.5 | 100.4 | 98.3 | 98.8 | 91.6 | 99.1 | 100.1 | 101.7 | |
| 前月比 （%） | 0.0 | ▲ 0.2 | ▲ 0.2 | ▲ 0.1 | 0.5 | 4.4 | 0.2 | 0.3 | ▲ 1.2 | ▲ 1.3 | ▲ 0.6 | ▲ 0.7 | 0.0 | 0.1 | ▲ 0.1 | |
| 寄与度 | — | ▲ 0.20 | ▲ 0.16 | ▲ 0.09 | 0.13 | 0.20 | 0.03 | 0.04 | ▲ 0.05 | ▲ 0.04 | ▲ 0.03 | ▲ 0.09 | 0.00 | 0.00 | ▲ 0.01 | |
| 前年 同月比 （%） | 1.2 | 0.8 | ▲ 1.4 | ▲ 2.1 | 2.1 | 9.3 | 0.5 | 15.1 | ▲ 2.1 | ▲ 1.2 | ▲ 0.7 | ▲ 8.2 | 0.1 | 2.9 | 0.9 | |
| 寄与度 | — | 0.77 | ▲ 1.17 | ▲ 1.37 | 0.59 | 0.41 | 0.11 | 1.49 | ▲ 0.08 | ▲ 0.04 | ▲ 0.03 | ▲ 1.14 | 0.00 | 0.22 | 0.06 | |

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

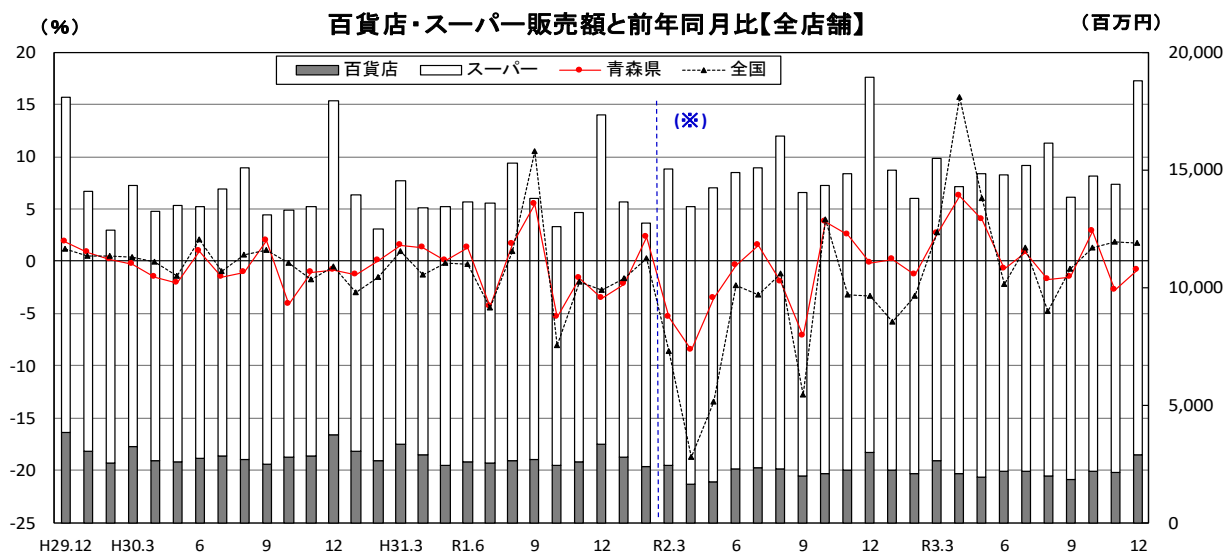
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

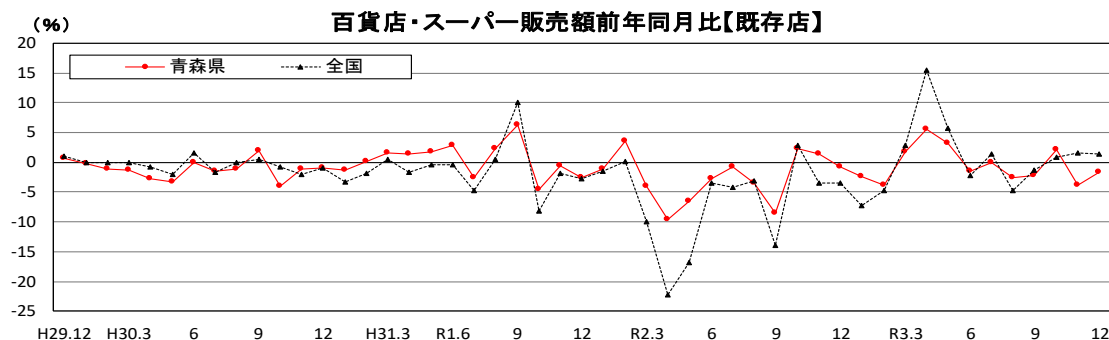
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

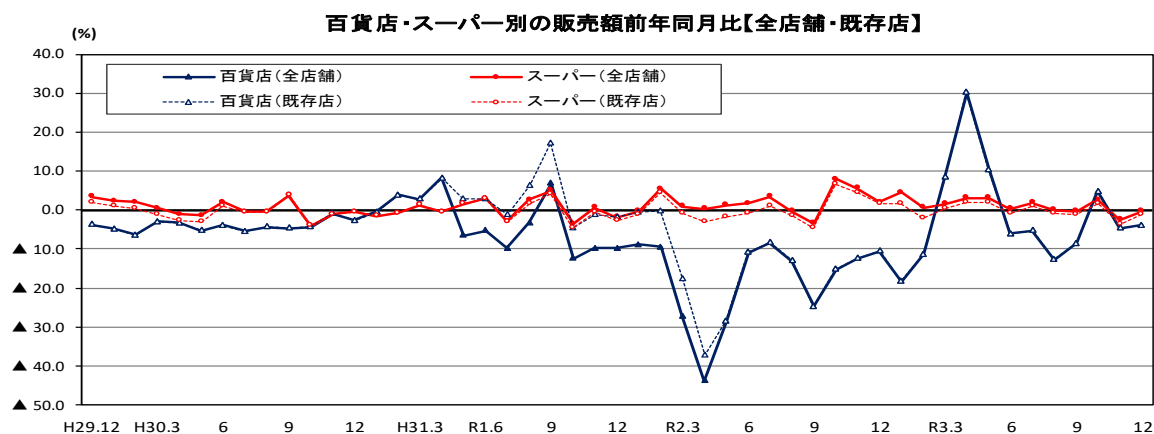
令和3年12月の百貨店・スーパー販売額は、188億円で全店舗ベースが前年同月比0.9%減(前々年同月比1.1%減)となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.7%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。



※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。

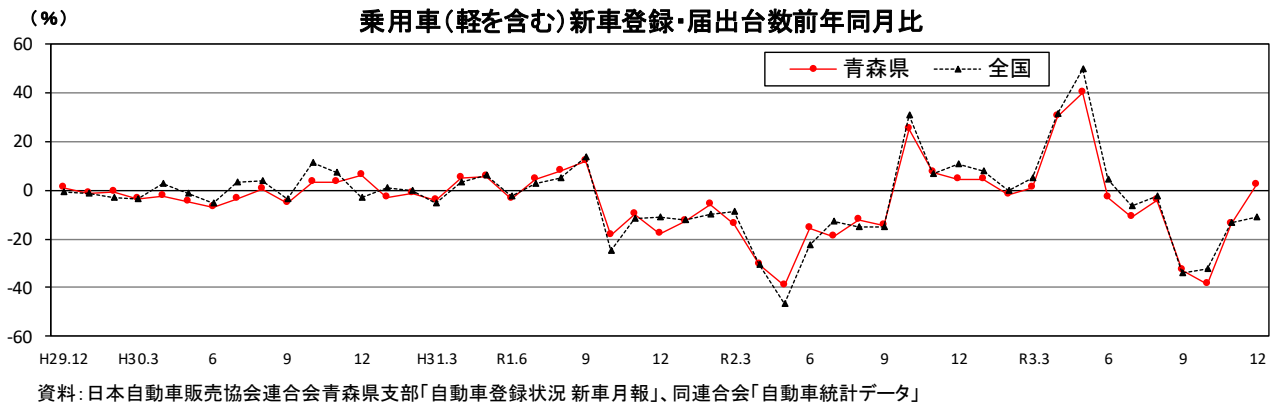


※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっていない事業所を除く。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



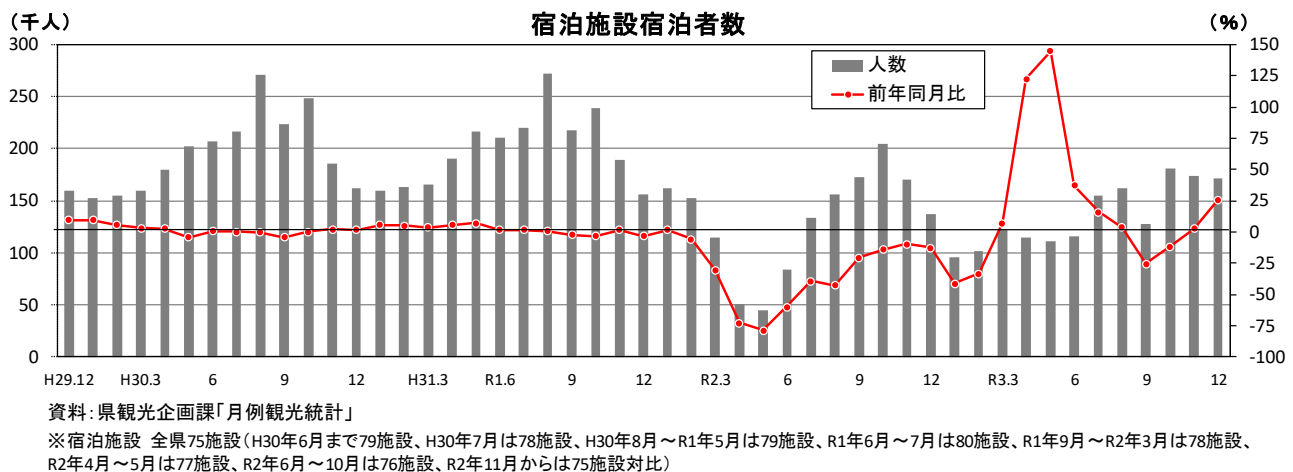
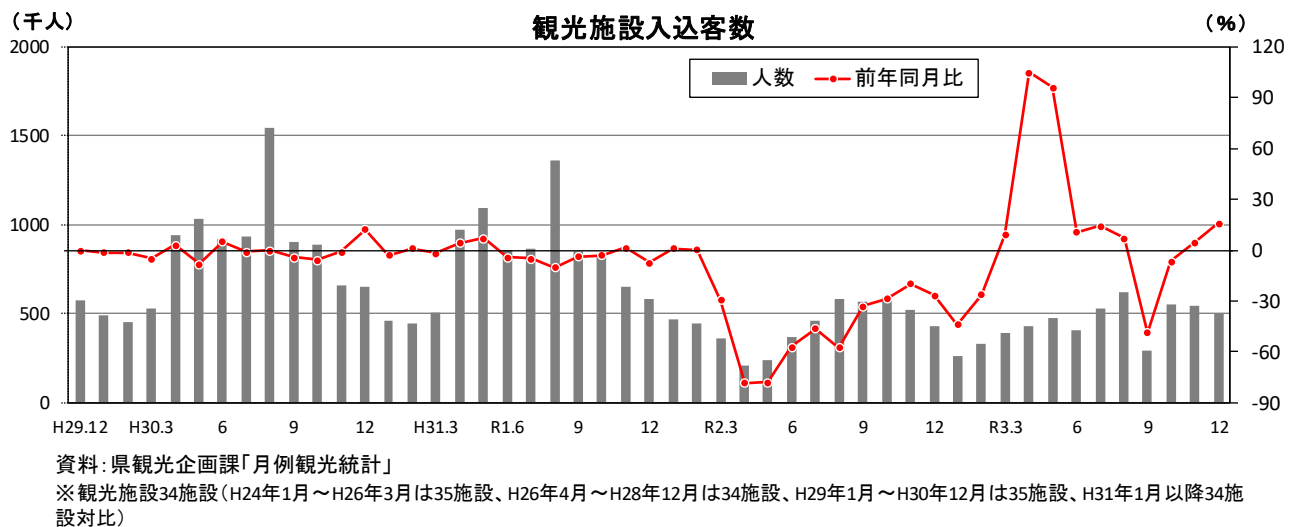
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

令和3年12月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,601台で、普通車と小型車が増加したことにより、前年同月比2.2%増(前々年同月比6.6%増)となり、7カ月ぶりに前年同月を上回った。



(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

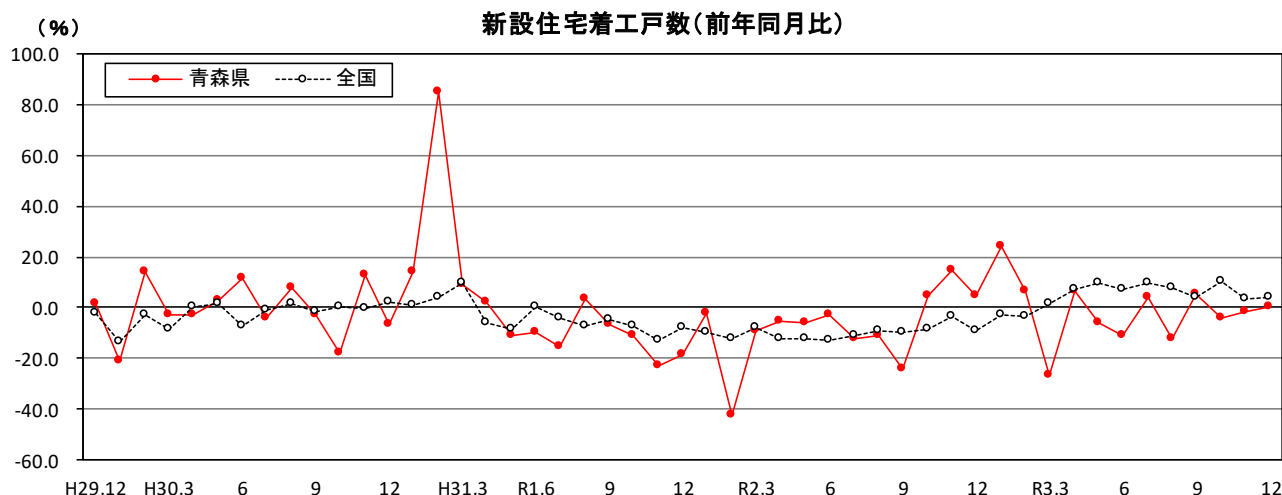
令和3年12月の主な観光施設の観光入込客数は、49万5千人で前年同月比15.7%増(前々年同月比15.0%減)となり、2カ月連続で前年同月を上回っているものの、前々年同月を下回っている。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、17万1千人で前年同月比25.5%増(前々年同月比9.6%増)となり、2カ月連続で前年同月を上回り、前々年同月も上回っている。



(2-5) 建設

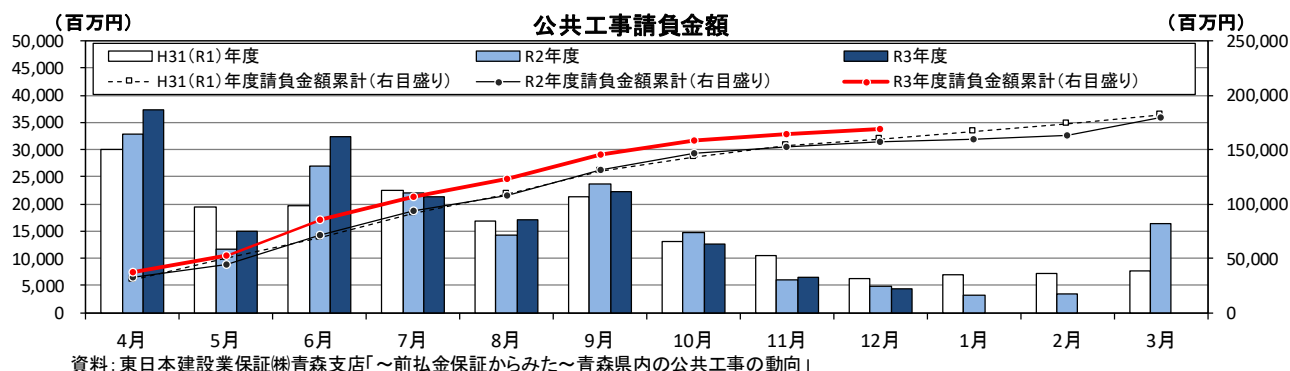
(2-5-1) 住宅建設

令和3年12月の新設住宅着工戸数は433戸で、分譲住宅等が増加した一方、持家や貸家が減少し、前年同月と同水準となった。



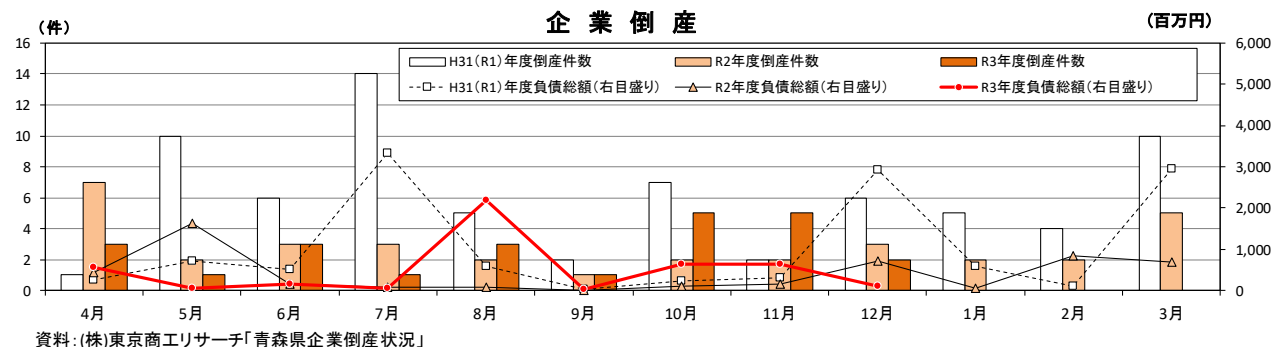
(2-5-2) 公共事業

令和3年12月の公共工事請負金額は43億9,200万円で前年同月比8.4%減となり、国や市町村の発注工事が減少したことにより2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、令和3年12月までの累計金額は1,690億1,300万円の前年同月比7.8%増となった。



(2-6) 企業倒産

令和3年12月の企業倒産は、件数は2件で前年同月比33.3%減となった。負債総額は1億1,900万円の前年同月比83.7%減となった。



(3) 青森県景気動向指数 ※更新なし

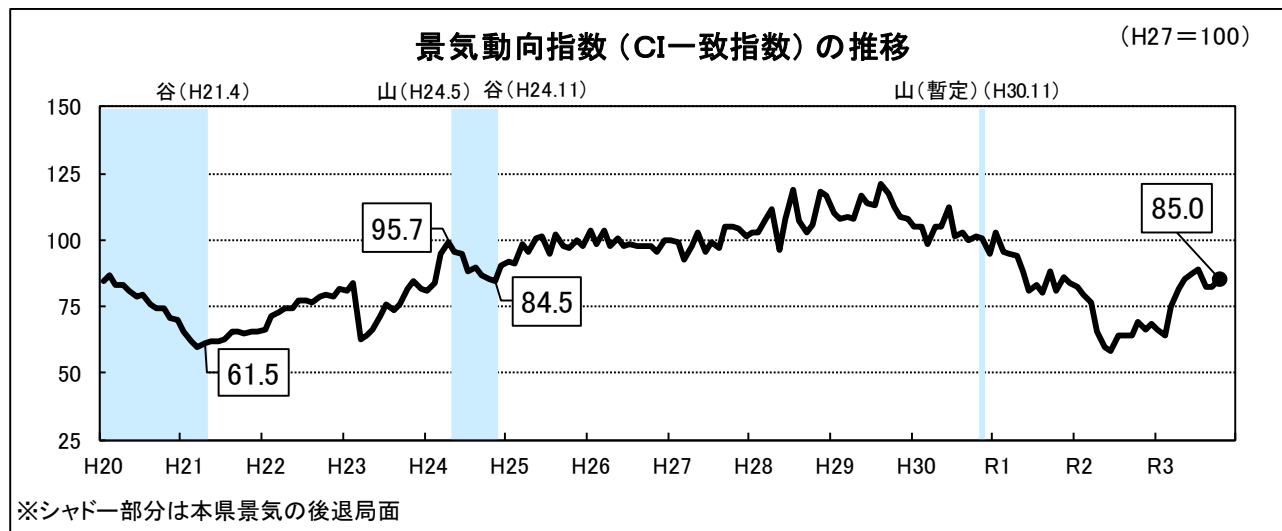
令和3年10月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数118.1、一致指数85.0、遅行指数100.2となった。

先行指数は、前月を10.5ポイント下回り、4カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を2.3ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。

遅行指数は、前月を3.3ポイント上回り、3カ月連続で上昇した。

10月の一致指数は、消費、生産、雇用関連の指標がプラスになったことから上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

● 個別指標の寄与度（寄与指標は季節調整を行わず、前年同月と前月とを比較して算出）

| 寄与度がプラスの指標 | | | 寄与度がマイナスの指標 | | |
|--|------|-------|----------------|-------|-------|
| 先行系列 | | | | | |
| 日経商品指数（42種） | 1.86 | 2カ月連続 | 新規求人倍率（全数） | -7.49 | 3カ月ぶり |
| 中小企業景況DI | 1.79 | 4カ月ぶり | 企業倒産件数（逆サイクル） | -4.21 | 6カ月連続 |
| 建築着工床面積 | 1.08 | 2カ月連続 | 乗用車新車登録届出台数 | -1.49 | 2カ月連続 |
| | | | 生産財生産指数 | -1.47 | 2カ月連続 |
| | | | 新設住宅着工床面積 | -0.67 | 2カ月ぶり |
| 一致系列 | | | | | |
| 百貨店・スーパー販売額（既存店） | 1.66 | 2カ月連続 | 所定外労働時間指数（全産業） | -0.44 | 3カ月連続 |
| 投資財生産指数 | 0.87 | 2カ月連続 | 輸入通関実績（八戸港） | -0.25 | 2カ月ぶり |
| 有効求人倍率（全数） | 0.60 | 2カ月ぶり | 鉱工業生産指数 | -0.13 | 2カ月ぶり |
| | | | 旅行取扱高 | -0.07 | 5カ月連続 |
| 遅行系列 | | | | | |
| りんご消費地市場価格 | 2.64 | 3カ月連続 | 常用雇用指数（全産業） | -1.31 | 2カ月ぶり |
| 家計消費支出（勤労者世帯：実質） | 0.91 | 2カ月ぶり | 公共工事請負金額 | -0.30 | 2カ月連続 |
| 青森市消費者物価指数（総合） | 0.67 | 2カ月連続 | | | |
| 県内金融機関貸出残高 | 0.40 | 5カ月ぶり | | | |
| 有効求職者数（全数）（逆サイクル） | 0.24 | 8カ月連続 | | | |
| （参考）青森県景気動向指数（DI） 先行指数 37.5% （15カ月ぶりに50%を下回った） 一致指数 66.7% （14カ月連続で50%を上回った） 遅行指数 28.6% （2カ月ぶりに50%を下回った） | | | | | |

※一致系列「旅行取扱高」の令和3年10月分の値は未公表のため、一致指数は暫定値。

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和4年1月期）

現状判断DIは、全国的に新型コロナウイルス感染者数が減少したことによる年末年始の人出の増加や、第5波があった3カ月前と比べると徐々に回復しているといった声があり、前期比7.5ポイント上昇の52.0となった。

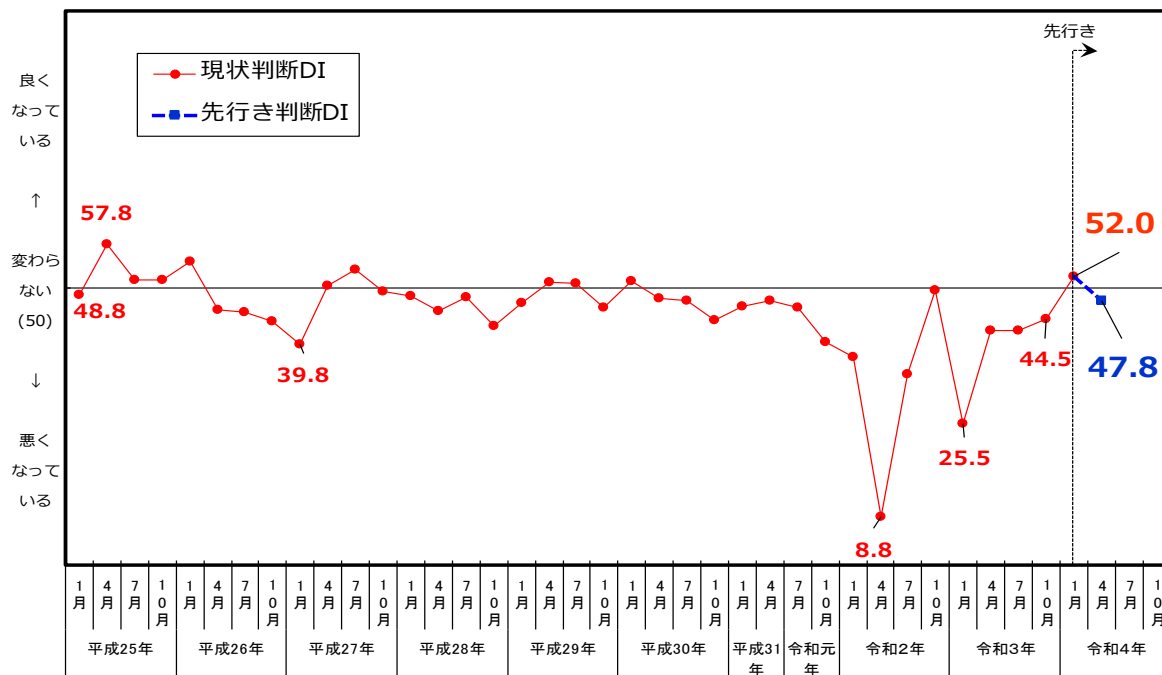
先行き判断DIは、県内含む全国的なオミクロン株感染者の増加や、1月中旬以降の急速な感染拡大といった第6波による影響を挙げる声のほか、景気を左右するほどの直感的な材料が見当たらないといった先行きの不透明感を挙げる声があり、現状判断DIと比較して4.2ポイント低下の47.8となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を16期ぶりに上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を下回った。

（調査期間 令和4年1月4日～1月27日 回答率 100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント低下、「やや良くなっている」が25.0ポイント上昇、「変わらない」が20.0ポイント低下、「やや悪くなっている」が1.0ポイント低下、「悪くなっている」が3.0ポイント低下となった。全体では52.0となり、前期から7.5ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50を16期ぶりに上回った。

向

判断理由では、全国的に新型コロナウイルス感染者数が減少したことによる年末年始の人出の増加や、第5波があった3カ月前と比べると徐々に回復しているといった声がある一方で、ガソリン・灯油を始めとする物価の上昇や年末の大雪による来客数の減少、1月中旬以降の感染拡大の影響を挙げる声があった。

前期調査と比べて、全地区で上昇し、東青、県南、下北で景気の横ばいを示す50を上回っている。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が1.0ポイント上昇、「やや良くなる」が16.0ポイント低下、「変わらない」が11.0ポイント上昇、「やや悪くなる」が5.0ポイント上昇、「悪くなる」が1.0ポイント低下となった。全体では、今期調査の現状判断DIと比べて4.2ポイント低下の47.8となり、景気の横ばいを示す50を下回った。

向

判断理由では、県内含む全国的なオミクロン株感染者の増加や、1月中旬以降の急速な感染拡大といった第6波による影響を挙げる声があるほか、景気を左右するほどの直感的な材料が見当たらないといった先行きの不透明感を挙げる声があった。また、物価の上昇による影響や、一部業種でウッドショックや半導体不足の影響を挙げる声もあった。

今期調査の現状判断DIと比べて、東青、県南、下北でポイントが低下した。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

| | |
|---|--|
| ◎ | 市内、県内の方が来店してくれるようになりました。3カ月前は県外の方が多かったのですが、県内の方が外食してくれるようになり、このまま賑わっていてほしいと思っています。(レストラン=県南) |
| ○ | 年末で需要があり、人の動きもあった。ただ、雪の影響もあって、天気の様子によっても、かなり経済は左右されるなど感じています。(一般飲食店=東青) |
| ○ | 一時的にもコロナが収束した気配に社会の緊張がほぐれ、経済活動が再開したように感じる。(美容院=津軽) |
| ○ | コロナ感染者の減少と年末で、少しずつお客さんが出始めている。(スナック=津軽) |
| ○ | 秋には修学旅行が実施され、全国的にコロナが落ちついていたので、一般の方々も旅行に出やすかった。(旅行代理店=県南) |
| ○ | コロナ感染第5波が落ち着き、夜の町での飲食や団体の会合の懇親会なども少しずつ増えてきた。(飲料品製造=県南) |
| ○ | 一時的な状況かもしれませんが、外出する方が増えていると思います。(タクシー=下北) |
| □ | コロナウイルスが収束せず、旅行計画等がキャンセルとなっているため。(旅行代理店=東青) |
| □ | コロナの影響による、景気停滞感が続いている。(乗用車販売=津軽) |
| □ | オミクロン株の流行で先行きが見えない。(一般飲食店=津軽) |
| □ | 年末はガソリン・灯油代の高騰や、12月中旬以降は気温が低くなりましたが、暖房商品が苦戦。15才未満の世帯への現金給付もありましたが、急な売上増とはならなかった。(家電量販店=県南) |
| □ | コロナ感染拡大が一時的に落ち着いたものの、いまだ様子見をしている状況と思われ、景気が回復していると実感できるほどの状況にはなっていない。(新聞社求人広告=東青) |
| △ | コロナの影響で自粛が続いており、外出の機会が減っている。(乗用車販売=県南) |
| △ | 一時期コロナウイルス感染症がやや落ち着き、わずかながら景気が上昇するような気配があったが、ここきてのオミクロン株。また逆戻りです。(都市型ホテル=下北) |
| × | 各業態、業種の値上げが大きく影響しているため。(スーパー=津軽) |

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

| | |
|---|--|
| ◎ | 年末年始の人の往来で、感染者が多くなってきているが、ワクチン接種、対策を万全にしていけば、家庭用、飲食店用のイベントも多くなってくると思われる。(卸売業=東青) |
| ○ | コロナ感染の終息状況による。但し、オミクロン株による第6波が急拡大した場合は、外出制限、自粛となり反転する。(衣料専門店=県南) |
| ○ | 大分、人流も戻り始めている。この後、新たなコロナ変異株の影響次第だと思われるが、感染傾向が拡大しないという期待をこめて。(ガソリンスタンド=県南) |
| ○ | 3カ月前であれば、オミクロン株も少し落ち着き、景気も上向くと思う。(都市型ホテル=下北) |
| ○ | 新型コロナウイルスの感染状況次第だが、雪解けとともに、旅行や観光機運の高まりに期待をかけた。い。(新聞社求人広告=津軽) |
| □ | 新種のコロナウイルスの出現が先か、それに対するワクチン開発が先か、この繰り返しが続いていくような感じがする。(ガソリンスタンド=東青) |
| □ | 新型コロナウイルス感染症が収束することなく、景気が上向かないまま向かいそう。(娯楽業=東青) |
| □ | 11月から少しよくなっているが、寒波・大雪・オミクロンで良くなりそうな気配が帳消しになりそうである。(一般小売店=津軽) |
| □ | 物価は上がるし、オミクロン株は異常なまでの増え方だし、ようやく腰を上げようとしたのが、また、先に戻ってしまった感じです。(一般飲食店=下北) |
| □ | 悪い状況がしばらくは続くと思われる。(広告・デザイン=津軽) |
| □ | 新型コロナの第6波が懸念される。(紙・パルプ製造=県南) |
| □ | オミクロン株の拡大次第だが、まだ消費行動に消極的・様子見の企業様が多い。(人材派遣=東青) |
| △ | 現在、全国的にコロナ感染者数が爆発的に増えていることと、閑散期となるため。職種、コロナウイルスの感染状況に直結している。(観光名所等=東青) |
| △ | 年末年始の人出で、新型コロナオミクロン株の感染者が増えているから。(スナック=津軽) |
| △ | 年末年始で、人々の動きが活発になった反面、またコロナの感染者が増え、21年の春と同じような感じです。(食料品製造=下北) |
| × | 県民割、GOTO等の施策が打ち出されるなか、オミクロン株が拡大し、第6波の懸念がある。(都市型ホテル=東青) |

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」